

●熊倉さんのバトルクリーク市（アメリカ）の川だより



熊倉さん



熊倉委員の熊倉さん（熊倉委員）のバトルクリーク市（アメリカ合衆国）の川だより

「川の子ども新聞」編集委員の熊倉さん（熊倉委員）が、バトルクリーク市で「川」などに関するさまざまな体験をしてきたよ。アメリカの学習活動について報告をするね。

●バトルクリーク市とは？

5月12日から22日まで、アメリカ・シガン州のバトルクリークというまちに行きました。高崎市立城東中学校の熊倉委員先生、同中央小学校の大塚原先生、西家の外苑先生といっしょでした。



バトルクリーク市は、アメリカの大都市「底特律」などにも選ばれている環境先進都市です。そして、高崎市と姉妹都市をむすんでいるほかの国の都市とついでに、地産地消を守るために、まちと市民はながいのである。それを学び、体験するためのものでした。

●環境活動に学ぶ

バトルクリーク市は、とくに環境教育と水と緑の保全に力を入れていて、到着した翌日には、すぐ「子ども水フェスティバル」に参加しました。採取した川の水を観察し、温度変化による水流の発生（水の流れが生じること）、砂、泥、船上のち

がいによる水や汚染物質の浸透（しみこむこと）のちがいなどを、子どもたちは目をかがやかせて学んでいました。専門家が直接先生になるため、教材を工夫して用意したりと、高崎市から参加した高崎先生も、へん創感を受けたようでした。



「子ども水フェスティバル」で学ぶアメリカの子どもたち

5月15日は「子どもガーデン」に行きました。ピザをつくるのに必要な野菜類とか、虹色に色がさく花のたんとか、自由に子どもたちがテーマを設計して花や木を育てています。日本でも学校の花壇やまちの公園、遊歩道の植栽に取り入れてみる、おもしろそうです。

●「世界と「水」のネットワークを  
5月17日は、高崎市立城東中学校と姉妹校をむすんでいる小学校、数学・理科センターを訪問しました。日本語を学んでいる



高崎市立城東中学校の姉妹校の子どもたち

川や堤防を見たり、残念ながら、ここで不法投棄のゴミが目につきました。バトルクリークの方が、1年間で数年「それで数年前から、市民参加で河川のゴミをさらう」活動にもなる、それをやりつづけることで、市民の環境意識、水の保全意識が高まり、目で見えるような効果も出てくる。高崎でもそうでしょう」と言われたことが耳に残っています。参加者はすべてボランティアなのは当然としても、必要経費も市だけでなく、市民や企業の募金で集められています。学びたい活動の方法です。



バトルクリーク川のカヌー下り



調査船上でのミシガン湖水質調査

小学校があることは想像でした。また、小・中学校のための教師を開校し、先生方の研修もおこなうセンターがあり、そこに高校生が日常的にやってくる、とても高度な数理学、理科の研究を、専門家や大学の先生方から直接教えられるのはおどろきでした。みなさんも、そんな教育を受けたいでしょう。

5月18日には、州立大学の調査船に乗せていただき、ミシガン湖の水質調査を体験することができました。高崎市の松尾市市長もいっしょに船に乗り、直接調査を体験しました。群馬でも多くの川で水質、水生生物調査に参加する学校が増えてきています。この基礎とも関係していますが、世界の仲間と共同研究できることこそ大きなと感じました。その後、大会や屋上緑化施設の見学を兼ね、5月22日の夕方、日本に帰ってきました。